

O-2-7-17

ペリオテスト値とISQ値を併用したインプラントの荷重時期の客観的評価方法

○岡 吉孝

一般社団法人東京形成歯科研究会

Objective evaluation method for determining implant loading time using a combination of Periotest and ISQ values

○OKA Y

Tokyo Plastic Dental Society

I 目的： エックス線透過像が認められる骨にインプラント埋入をした場合には荷重時期の決定に苦慮することがある。今回、エックス線透過像を認める歯根破折症例においてインプラント埋入を行い初期固定は得られたが荷重時期を決定するためISQ値(Osstell[®])とペリオテスト値(ペリオテスト[®])による検査にて荷重時期が客観的に推測できた症例を経験したので報告する。

II 症例の概要： 患者は59歳男性。下顎右側臼歯部ブリッジの違和感及び、下顎左側遊離端欠損を伴う咀嚼障害を主訴に2021年5月に来院。顎位は安定し機能的には生理的咬合と判断した。45部は口内法エックス線検査およびパノラマエックス線検査にて根尖部に及ぶ約10mmのエックス線透過像を認めた。インフォームドコンセントを行い患者はインプラント治療を希望した。歯周基本治療ののち2021年9月に45部と46部に抜歯即時埋入し、35部と36部と37部に通常埋入した。その後、埋入から5週後の45のペリオテスト値が6.6でISQが52であった。その後ペリオテスト値は9週後に4、12週後に2、14週で0.8、16週で-1.0を示し、ヒーリングアバットメントを除去してISQ値を計測したところ69という値が得られたので、2022年1月に最終印象を行い上部構造を装着した。上部構造装着後パノラマエックス線写真、CT写真、口腔内写真を撮影。メンテナンス治療に移行し現在治療終了から3カ月経過しているが特記すべき事項は認めていない。

III 考察および結論： 本症例ではエックス線透過像を認めた歯根破折部位に対する埋入において、5週から2週間ごとにペリオテスト値を計測し埋入後16週にマイナス値を示した。ISQ値も埋入5週の52から埋入後16週の69までの上昇が確認できた。本症例においても簡便な検査で、客観的な荷重時期が把握可能となり安全な治療の一助となった。一方欠点としては、ペリオテスト値では骨内安定性の僅かな差を十分に検出できないとされている。ISQ値を継続的に計測するには毎回ヒーリングアバットメントを外してベグを締結する必要がある。オッセオインテグレーションの得られていないインプラントに対してはリスクが残る。したがって本法のようにペリオテスト値がマイナスを示した時点でISQ値の計測開始を行う方法は安全性の高い客観的評価法であり、かつ臨床的意義も高いと考えられた。